

# 日蓮聖人門連だより

発行  
日蓮聖人門下連合会  
〒146-8544  
東京都大田区池上1-32-15  
電話 (03) 3751-7181

平成27年2月16日  
第51号

## 法華宗(真門流)総本山本隆寺近況報告

執事長

本多信正



総本山本隆寺は、ここ数年来大事業として本堂大屋根の大改修事業にあたっております。当山は、御開山日真大和尚が長享二年(一四八八)に日蓮大聖人の真髓を受け継ぐ根本道場として、京都六角西洞院に創建



本堂外観



本堂内部

されました。法蓮は隆盛しましたが、天文法華の乱により堂宇は焼失。現在西陣の地の本堂は、当山第十世日蓮上人の功徳により、三年という短期間に明暦三年(一六五七)に再建されたものです。その後、享保十五年(一七三〇)並びに天明八年(一七八八)の二度、京都は大火に悉く焼き尽くされたにも奇跡的に焼失を免れ『焼けずの寺』の異名をもち、三百五十年以上の歴史を今も刻んでいます。依つて昭和六十一年四月十五日、祖師堂とともに京都府有形文化財に指定されました。東に本堂

その西に祖師堂を並べ渡り廊下で繋ぐ横並びの伽藍配置をとる京都の法華・日蓮宗寺院の現存は少なく貴重だということ。この建物が数年前より、特に瓦の傷みが激しく平成二十一年に本格的な調査を実施したところ、屋根瓦の破損のみならず、小屋・床組の腐朽、梁の破損等、予想以上の傷みが判明し、早急な大改修が必要になって来ました。この事態を受け、全門末あけて総本山本隆寺平成大改修委員会が発足し、平成二十三年に大改修事業に着手することになりました。趣意書を作成し、門末寺院檀信徒の皆様へ深大なるご寄進を募り、平成二十四年に工事にかかる予定でした。

そんな折、京都府執行庁指導部文化財保護課のお力添えで平成二十五年十月十八日に文化審査会に於いて、この本堂が祖師堂とともに国の重要文化財の指定を受けることになりました。これも仏祖三玉の御徳と、ご報恩感謝に堪えませぬ。それを受けて着工は、早く平成二十八年後期、平成二十

九年になるのではとの予想、工期も当初の倍の六、七年にわたるので、本年二月初旬より傷みの特に激しい部分、本堂の小屋組の応急補強工事にかかっていただくことになりました。来る平成三十四年(二〇二二)高祖日蓮大聖人御降誕八百年の聖年には完成が間に合わないと思われ、宗門としてこれからは考えなければならぬことになり。また御開山日真大和尚第五百遠忌も平成三十九年(二〇二七)にお迎えいたします。

国の重要文化財指定を受けて、昨年四月の千部会法要期間に文化財報告法要を厳修し、石碑を南門横に建てその除幕式も行いました。また同月から五月にかけて、京都古文化保存協会による「京都春季非公開文化財特別拝観」と題した京都二十力寺の一寺院として、二週間にわたって初めて公開にいたしました。おもに本堂・祖師堂及び桃山時代を代表する絵師長谷川等伯の「西王母図」、後水尾天皇が愛用した雅楽器、明治天皇より下賜された経机等を展示、六千五百人以上の多くの方々に



本堂(奥)と祖師堂(手前)の屋根

拝観していただくことができました。また本年は、昭和二十年八月十五日ボツダム宣言受諾を決め、戦争終結へと道を開いた終戦から数えて七十年にあたり、多くの人が戦場へと駆り出され、多くの人が犠牲になられた。そこで宗門はその慰霊のため、宗山一体として報恩のお題目をお唱えし、永久の平和を願うお誓い申し上げたいと思いで、その多くの英霊が今もねむる激戦地、二十万人を超える方が亡くなられた沖繩の地で僧俗ともに心を一つにして御霊に慰霊の念を捧げるために参拝に赴くことが決定しました。この亡くなった三百万人を超す人々の死を無にすることなく、平和な日本、世界をつくる努力を続けることが我々の義務であり、後世への責任でもあるのです。

### 法華宗(本門流)興隆学林新校舎落成慶讃法要

昨年九月二十九日、耐震改築工事を終えた興隆学林専門学校の新校舎落成慶讃法要が奉修された。

午前十一時からの法要は、法華宗管長・大本山鷲山寺貫首・平田日範猯下導師の元、各大本山の御貫首、宗務総長をお迎えし、真新しい四階講堂御宝前にて行われた。当日は宗内外から約二百名の参列者が見込まれたため、別室にモニター会場を設けるほどの盛会となった。大導師の慶讃文には、全国寺院・檀信徒、宗門外から多額の

浄財をいただき、一大浄行が成就したことへの感謝と慶び。また、旧校舎地に大本山本興寺が建設予定の「信行勸学院」に学林生の寄宿機能が含まれることへの謝意が示されていた。僧風教育の重要性が問われている。今、何より学生の生命を守るため、新校舎を建築、また寄宿舎もその思いに込め、計画されていることに一同万感の思いを込め、法味を捧げた。

興隆学林は、宗内僧侶は勿論のこと、他門流・一般信徒の学生を今後も広く受け入れる。新しい時代に適応しつつ「一門四海皆帰妙法」の祖願成就に向かって、興隆学林が新たに第一歩目を踏み出した吉日であった。

### 興隆学林縁起

享徳三年(一四五四)、門祖日隆聖人が尼崎・本興寺に「勸学院」を創立。幾多の変遷を経て、昭和四年、私立学校令により尼崎中学校となる(旧制中学校)。昭和二十三年、枚方・大隆寺に校舎移転。昭和四十八年、大本山本興寺内に復帰建立。昭和五十九年、学校法人法華学園として認可、現在まで五百六十余年の歴史を持つ。(宮村光明報)



興隆学林外観

### 從地ゆじゅつ

◆昨年、新聞社の謝罪会見があり大変驚いた。私は昭和四十年代生まれだが、当時の教科書にはそのような事実が感じられる。教える先生もそのようにならざるを得ない。ましては、疑う気持ちなどなく、教科書に書かれている事は信用していただこう。それに同級生と会ったとき、その話題にはならなかった。その話には、時代は洗脳されているのか? かわらない。しかし、事実が公になり、高校生の娘は正しい歴史を教えたいと言っている。中学生の息子とは歴史認識の意見交換ができたので、私としては良い教育機会に恵まれたと感謝している。教育は大切だと改めて実感した。

◆私は本門法華宗だが、大学は立正大学に通い、身延山僧道実修生を経て、興隆学林専門学校で三年間学んだ。大学では法華宗、法華宗本門流、本門仏立宗、興隆学林、法華宗本門流、日蓮正宗と各門流の同窓会があり、身延山久遠寺では分けてなく僧道実修を受け、興隆学林では教学の大切さを教わった。その中で感じた事は、僧風教育の重要性であり、この経験がなければ今の僧侶としての自分はないと言えぬ。

◆これからは日本国は少子化が進み、門下を目指す僧侶も少なくなっていく。その中で未来の法燈を育てていく僧風教育は重要であり、どのように育てていくかが喫緊の課題である。例えば、僧侶の数が足りないと言っている外国の方を僧侶に育てて行くには、日本人の私でさえ大変だった言葉の問題がある。指導がいじめ(パワーハラスメント?)と勘違いされる懸念もあり、信行が一番であるが、教える側と教わる側双方の努力は並大抵では動まらなと思う。実際に実修生の時、インドの方が身延山に連れられ一緒に実修していたが、日本語が通じず意識疎通が大変だった。また、私もそうであるが、世襲制の問題も議論しなければならぬと思う。

◆そこで一つの案であるが、各門流の僧風教育機関の交流があつて良いと思う。例えば唱題行や弁論大会でも良いし、釈伝やボウリングでも良いと思う。その交流の中で互いに刺激を受け、それはすごい事だ。

◆日蓮聖人は『生死大事血脈鈔』に「總じて日蓮か弟子檀那等、自他彼此の心なく水魚の思を成して、異體同心にして南無妙法蓮華經と唱へ奉る處を、生死一大事の血脈とは云ふ也。」「異體同心事」に「異體同心なれば萬事を成し、異體異心なれば諸事叶ふ事なしと申す事は、外典三千餘巻に定りて候。(中略)日蓮が人類は異體同心なれば、一人すくなく候へども大事を成じて、一定法華經ひるまりなど覺へ候」とあり、門流は異なるが、南無妙法蓮華經のお題目を唱える者は同じ心を持っていて仰つており、人が少なくなつても異體同心ならばお題目が弘まると仰つている。門流間の考え方の相違があると思うが、今こそ異體同心になり交流を深め、日蓮聖人門下として未来の法燈を育て行く事を切に願う次第である。(敬)

◆日蓮聖人は『生死大事血脈鈔』に「總じて日蓮か弟子檀那等、自他彼此の心なく水魚の思を成して、異體同心にして南無妙法蓮華經と唱へ奉る處を、生死一大事の血脈とは云ふ也。」「異體同心事」に「異體同心なれば萬事を成し、異體異心なれば諸事叶ふ事なしと申す事は、外典三千餘巻に定りて候。(中略)日蓮が人類は異體同心なれば、一人すくなく候へども大事を成じて、一定法華經ひるまりなど覺へ候」とあり、門流は異なるが、南無妙法蓮華經のお題目を唱える者は同じ心を持っていて仰つており、人が少なくなつても異體同心ならばお題目が弘まると仰つている。門流間の考え方の相違があると思うが、今こそ異體同心になり交流を深め、日蓮聖人門下として未来の法燈を育て行く事を切に願う次第である。(敬)

『各派のページ』第七回 「日蓮本宗門内外で活躍する僧侶」

（プロフィール）



日蓮本宗元宗務総長  
日蓮本宗・長福寺住職

岩崎広義さん

生きる仏教

日蓮本宗は日蓮大聖人より第二祖日興上人、第三祖日目上人、そして第四祖となる本山要法寺御開山日尊上人へと血脈相承を継承する歴史と伝統のある宗門です。

日尊上人は奥州のご出生で幼少の頃より天台宗の教義を学ばれていたが、十九歳になられた時善知識を求めて観音堂に籠もり百日の行に入られ、その

いわさき こうぎ 昭和二十八年福島県生れ。昭和五十四年立正大学仏教学部宗務科卒。  
日蓮本宗宗務総長、本山要法寺執事長など重職を歴任。現在も日蓮本宗勸学寮常任講師として活躍。京丹後市長福寺住職。

正安二年（一三〇〇）九月頃、重須談所で日興上人が御義口伝の御講義をされていたとき、それを聴聞されていた日尊上人が庭に目を向けられた途端に日興上人から「直ちに座を立つべし」と御勸気を受られ、爾来日尊上人は全国を駆け巡られ十二年間三十六箇寺建立されるという大偉業を成し遂げられました。

百日満願の夜にひとりの高貴な老僧が現れ「汝南方に行くべし」とお告げがあったと伝えられています。

そのお告げに従って南方を目指していると、弘安六年頃（一一八三）第三祖日目上人と出会われ、即時に弟子入りされたという。師伴ついで身延へ登られ、弘安六年十月十三日、大聖人一周忌の法事の折に第二祖日興上人と会見されて以来、日興上人に師事されたという。

に及ぼし、立正安国の理想を実現すべく教えられました。この大聖人の教えは、二祖・日興上人にうけつがれ、その遺命によって王城（京都）弘通の大業を果たされた日尊上人開創の根本道場が我が日蓮本宗であり本山要法寺であります。要法寺は、高祖日蓮大聖人の広宣流布の大願を果たすべく使命を担って、血脈相承の眞首上人を中心に、連綿として今日にいたっております。

と、日興上人は、琉球国に生れ、日本国関東足利学校に学び、学業に専念、足利某より易学を伝授され、その後、本山中興の辰辰上人の弟子となり学を勤められ広島市中央区大手町にある長遠寺や大阪天満の蓮興寺を中興されるなど、その他多くの寺院を建立されている。各地を弘通の後、碩学高德の聞こえが高く大阪城に招かれ、豊臣秀頼公の信任を得、指南番を勤められました。その後、日興上人は隠居の地を求められた所、天領であった当地境内南北四三間、東西二七間のもと粟生の古城跡を賜り、古城の森と呼ばれる地に因んで、山号を古城山とし、寺号も本成寺として建立されたのである。これが当寺撰津国粟生村古城山本成寺の濫創であります。しかし残念、平成十六年一月四日未明堂宇全焼、先住職、光

原光承（哽）さん

（プロフィール）

はら こうじょう（たかし） 昭和二十一年七月、大阪府箕面市、本山末寺の本成寺で生れ育ち、本宗・本山の宗務・山務および地方公務員として就労。日蓮本宗責任役員、大阪日蓮聖人門下懇話会副理事長、国際ロータリー第二六六地区・箕面千里中央ロータリークラブ理事（元会長）。

本宗のおしえ

高祖日蓮大聖人は、数多い仏教典のなかで、法華経こそ末法の我々のよりどころであるとされ、なかでも如来寿量品第十六に説かれた久遠の本仏の大慈大悲を高唱されました。自らも久遠の弟子である上行菩薩であるという自覚に立ち、五字、七字の題目こそが成仏の直道であり、この幸せをひろく他



平成21年11月1日 本堂新築落成



平成26年1月吉日 山門新築落成



お盆なのに境内で若者たちと焼肉パーティをする変な和尚

本山末寺古城山本成寺  
本成寺は、本山第十七祖日尊上人により開基され現住職で二十六代目になります。伝えられる所によりま

朝の勤行の声や鑼・太鼓の音が終つて、住職が今日は寺に居るもんやと思つて……寺へ行つても、いつも住職がおらんやん？ どないなつてんねんといいつつ、本堂に、お供え物が無断で置いてあったり、本堂に募参したメモ書きが置いてあったり……。とにかく「おもろい坊さん」である。

立正大学文学部史学科に八年も在籍その間に現在の生涯学習の走りともいふべき公民館活動に参画（一例をあげれば、群馬県利根川近くの村にて、農村青年の離村問題に取り組んだり）、そうかと思えば国際交流（韓国・北朝鮮・中国・アメリカ・イギリス・その他）に力を入れたり、史学科においては中世史研究として、関東における武士団の成立について研究してみたり、卒論においては、日蓮聖人を取りまく

入社した友人にその苦しみ打ち明けました。すると友人は日蓮大聖人の教えをひもとい私を諭してくれました。その時私の心は、不安で覆われていた黒く重い雲もすっかり払われ、澄み渡った空が広がった気分になり、大聖人の偉大さと仏教の教えの奥深い思想にひびく感銘を覚えたのです。

「日蓮大聖人の御教えは先祖供養の為だけに私たちには必要ない。むしろ生きるだけのために必要ない。むしろ生きるだけのために必要ない。むしろ生きるだけのために必要ない。」

「日蓮本宗の教義を研鑽し、その宣揚をめざす」としたものの、現代に生きる若き僧侶の育成と研鑽を目指すことに違はないものと思われず。

と、日興上人は、琉球国に生れ、日本国関東足利学校に学び、学業に専念、足利某より易学を伝授され、その後、本山中興の辰辰上人の弟子となり学を勤められ広島市中央区大手町にある長遠寺や大阪天満の蓮興寺を中興されるなど、その他多くの寺院を建立されている。各地を弘通の後、碩学高德の聞こえが高く大阪城に招かれ、豊臣秀頼公の信任を得、指南番を勤められました。その後、日興上人は隠居の地を求められた所、天領であった当地境内南北四三間、東西二七間のもと粟生の古城跡を賜り、古城の森と呼ばれる地に因んで、山号を古城山とし、寺号も本成寺として建立されたのである。これが当寺撰津国粟生村古城山本成寺の濫創であります。しかし残念、平成十六年一月四日未明堂宇全焼、先住職、光

檀越について研究してみたり、卒後は本山にて一年半も修行（師匠が前回は東京で何とつてん、お前は軟派人間やから自坊へは帰つて来るな）、修行終了後は、大阪府茨木市で小学校の教諭として就労しつつ、同和教育・障害者教育にも首をつっこむ。その後、障害者問題に関して箕面市へ就職。寺と公務員として二足の草鞋をはきながら、国際奉仕・社会奉仕団体である国際ロータリークラブに入団し奉仕活動に専念しつつ、青少年との交流（一例として、写真にもある様に、お盆前に境内にて青少年と焼肉パーティー。何しとんねん……といわれそう）等多忙である住職である。また、大阪日蓮聖人門下懇話会の副理事長に選任されて一年が過ぎた所でガンが発覚、一ヶ月半の入院生活を経て退院後、現在も化学療法にて抗ガン剤を血液へ点滴して治療中である。おもろい坊さんまだ生きとるで……と言われながら、色々な方面に手を出している住職である。時には本堂で法話をしているのだが……みな様に迷惑をかけながら生きています。笑

今年には阪神・淡路大震災二十周年目を迎えました。六千四百三十四人の命が奪われました。犠牲になられた方々を悼みつつ筆を措きます。

「日蓮本宗の教義を研鑽し、その宣揚をめざす」としたものの、現代に生きる若き僧侶の育成と研鑽を目指すことに違はないものと思われず。

特に、本年は夏期研修会も回を重ねてめでたく五十周年を迎えようとしていますが、この五十周年を契機として現代に生きる仏教とは何かを再確認し、未来へ向けて宗門が更なる発展飛躍されることを念願しています。

「日蓮本宗の教義を研鑽し、その宣揚をめざす」としたものの、現代に生きる若き僧侶の育成と研鑽を目指すことに違はないものと思われず。

Advertisement for Nippon Travel Agency (日本旅行) featuring a 110th anniversary logo and contact information for the Shinjuku branch.

### 日蓮宗宗務院

宗務総長 小林順光 財務部長 中川法政  
 伝道局長 齊藤憲一 宗務総長室長 小林正雄  
 総務局長 塩崎望巳 現代宗務研究所長 三原正資  
 伝道部長 吉田見悠 参 与 山口裕光  
 教務部長 田中文教 参 与 吉田海心  
 総務部長 風間随修 日蓮宗新聞社長 草ヶ谷秀人

〒146 8544 東京都大田区池上一―三二―一五  
 電話 〇三(三七五)七七八一  
 FAX 〇三(三七五)七七八六  
<http://www.nichiren.or.jp>

### 法華宗(本門流)宗務院

管 長 石田日信  
 宗務総長 二瓶海照  
 庶務部長 金井孝顕  
 布教部長 久永晃顕  
 教学部長 三吉廣顕  
 財務部長 清水常光  
 責任役員 山田庸温

〒103 0013 東京都中央区日本橋人形町二―一九―一  
 電話 〇三(五六一四)三〇五五  
 FAX 〇三(五六一四)三〇五六

### 顕本法華宗宗務院

管 長 山本日恵  
 宗務総長 朝倉俊幸  
 宗務次長 藤崎行学  
 教務部長 早川義正  
 庶務部長 阿曾久成  
 社会部長 湯原純勇  
 布教部長 桑村信慶  
 財務部長 河野時巧

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一  
 電話 〇七五(七九二)七二七一  
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

### 法華宗(陣門流)宗務院

管 長 石丸日然  
 宗務総長 佐古弘文  
 総務部長 牧野秀成  
 教学部長 布施義高  
 教化部長 松吉慶憲  
 財務部長 金原孝宜  
 企画部長 今井満良

〒170 0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六  
 電話 〇三(三九一八)七二九〇  
 FAX 〇三(三九一八)〇二二一

### 本門佛立宗宗務本庁

宗務総長 木村日覚  
 宗務副総長 西村日要  
 宗務副総長 植松常二郎  
 教務局長 亀井日魁  
 弘通局長 植田日事  
 総務局長 藤本日唱  
 広報局長 澤田日松  
 財務局長 西村日勲  
 奉賛局長 藤本日涌

〒602 8377 京都市上京区御前通二条上多東堅町二―〇番地  
 電話 〇七五(四六一)一六六(代)  
 FAX 〇七五(四六四)五五九九

### 日蓮本宗宗務院

管 長 丹治日遠  
 宗務総長 加藤法夫  
 総務部長 原光明  
 財務部長 住友公亮  
 教務部長 工藤海淳

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ノ法皇寺町四四八  
 電話 〇七五(七七二)三三九〇  
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

### 法華宗(真門流)宗務庁

管 長 田仲日紘  
 宗務総長 堀智泰  
 総務部長 木村完祥  
 教学部長 堀内浩善  
 教化部長 加藤順昭  
 財務部長 上田泰源  
 社会部長 峰尾泉栄

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ノ紋屋町三三〇  
 電話 〇七五(四四一)五七六二  
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

### 本門法華宗宗務院

管 長 松下日肆  
 宗務総長 藤井日靖  
 宗務部長 増田隆雄  
 財務部長 吉村日彦  
 教務部長 土畑信教  
 庶務部長 高山岳隆  
 高邊晶啓

〒602 8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内  
 電話 〇七五(四五二)三二二七  
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

### 宗教法人 国柱会

賽 主 田中壮谷  
 理事長 原田義彦  
 門連理事 森山真治  
 門連常任理事 藤本坦孝  
 門連理事 的場春奈  
 編集委員 (門連会) 的場春奈

〒132 0024 東京都江戸川区一之江六一―九一―八  
 電話 〇三(三六五六)七二二(代)  
 FAX 〇三(三六五六)九九八〇  
<http://www.kokuchukai.or.jp>

### 京都日蓮聖人門下連合会

会 長 伊丹日章  
 副会長 山本日恵  
 理事長 橋本一妙  
 副理事長 吉永義康

京門連事務局  
 〒606 8376 京都市左京区二条通川端東入大菊町九六  
 頂妙寺布教会館内 日蓮宗京都府第一部宗務所内  
 電話 〇七五(七六二)二四一一  
 FAX 〇七五(七五二)九三三八

### 日本山妙法寺大僧伽

首 座 吉田行典  
 責任役員 酒井天信  
 同 今井行康  
 同 池田行朗  
 同 二宮和嘉  
 同 木津博充  
 同 川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局  
 〒150 0045 東京都渋谷区神泉町八一七  
 電話 〇三(三四六一)九三六三  
 FAX 〇三(三四六一)九三六七

### 大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 東孝信  
 副理事長 原光承  
 顧問 奥邨正寛  
 顧問 木下恵温  
 顧問 藤村恵容  
 顧問 門谷光瑞  
 顧問 中村日游

〒582 0020 大阪府柏原市片山町一九番二一―号 安心寺内  
 電話 〇七二(九九七)九八〇六  
 FAX 〇七二(九九七)〇一八四

日蓮宗総本山 **身延山久遠寺**

〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七  
電話 〇五五六(六二)一〇一一  
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

法主 内野 日総  
総務 井上 瑞雄

---

法華宗(陣門流)総本山 **本成寺**

〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一二〇  
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八  
FAX 〇二五六(三三)〇〇五九

貫首 石丸 壯然  
執事 笹原 良光  
執事 平井 孝之  
執事 栗田 公孝  
執事 荒川 正文  
執事 近藤 義昭  
執事 五十嵐 昭

---

本門佛立宗本山 **宥清寺**

〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町二〇五十一  
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)  
FAX 〇七五(四六三)四六五一

住職 二十五世 山内 日開  
執事 小野山 日住  
事務局長 奥 順作

---

宗祖御降誕靈場 日蓮宗大本山 **誕生寺**

宗祖御降誕八百年に向かつての祈り

〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三  
電話 〇四(七〇九五)二六二一  
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

貫首 石川 日命  
執事 橋本 宏信

---

日蓮宗本山 **堀之内妙法寺**

やくよけ祖師 山主 山田 日潮

〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八  
電話 〇三(三三三)六二四一  
FAX 〇三(三三三)五〇〇七

日蓮宗大本山 **池上本門寺**

〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一  
電話 〇三(三七五)一三三三一  
FAX 〇三(三七五)三三五〇

貫首 酒井 日慈  
執事 野坂 法雄  
役員 一同

---

法華宗(真門流)総本山 **本隆寺**

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇  
電話 〇七五(四四一)五七六二  
FAX 〇七五(四四一)五六六六

貫主 田仲 日紘  
執事 本多 信正  
執事 永岡 悠希  
執事 足立 真正  
執事 笹木 研吾

---

京都八本山会

会本山 本満寺 貫首 伊丹 日章  
大本山 本園寺 貫首 伊藤 日慈  
大本山 妙顯寺 貫首 三田村 日正  
大本山 立本寺 貫首 上田 日瑞  
本山 妙傳寺 貫首 野々垣 日祐  
本山 頂妙寺 貫首 安藤 日瑛  
本山 妙覺寺 貫首 及川 日周  
本山 本法寺 貫首 瀬川 日照

---

日蓮宗靈跡本山 比企谷 **妙本寺**

日蓮上人御聖廟 日蓮宗大本山 **富士山法華本門寺根源**

〒248 0007 鎌倉市大町一―一―一五一一  
電話 〇四六七(二三)〇七七七  
FAX 〇四六七(二五)六九六七

貫首 早水 日秀  
執事 立野 正泰  
山務役員 一同

---

日蓮宗本山 **瑞輪寺**

徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安

〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一  
電話 〇四七五(二二)三二五三  
FAX 〇四七五(二二)一一七三

貫首 持田 日勇  
総務 増田 寶泉  
執事 富永 一道  
執事 中川 貫泰

法華宗(本門流)大本山 **本能寺**

〒604 8091 京都市中京区寺町通御池下る  
電話 〇七五(二三一)五三三五  
FAX 〇七五(二二)二八三八

貫首 菅原 日桑  
執事 築瀬 城諒  
役員 一同

---

本門法華宗大本山 **妙蓮寺**

〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通天宮東入妙蓮寺前町八七五  
電話 〇七五(四五二)三五二七  
FAX 〇七五(四五二)三五九七

貫首 松下 日肆  
執事 音羽 隆全  
役員 一同

---

京都法華門流懇話会

法華宗(真門流) 総本山 本隆寺 貫主 田仲 日紘  
頭本法華宗 総本山 妙満寺 貫首 山本 日恵  
本門法華宗 大本山 妙蓮寺 貫首 松下 日肆  
法華宗(本門流) 大本山 本能寺 貫首 菅原 日桑  
本門佛立宗 本山 山肴清寺 貫首 山内 日開  
日蓮宗 本山 山要法寺 貫首 丹治 日遠  
法華宗(陣門流) 本山 山本禪寺 貫首 福井 日進  
頭本法華宗 本山 山寂光寺 貫首 大川 日仰

---

日蓮宗大本山 **中山法華経寺**

日蓮上人御聖廟 日蓮宗大本山 **富士山法華本門寺根源**

〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五  
電話 〇五四四(五八)一〇〇四  
FAX 〇五四四(五九)〇三〇三

貫首 新井 日湛  
執事 村尾 貞榮  
執事 高谷 正孝  
執事 滝本 善之  
執事 補田 智之  
執事 補田 智之  
執事 補田 智之

---

日蓮宗本山 **瑞輪寺**

徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安

〒110 0001 東京都台東区谷中四―二―一五  
電話 〇三(三八二)四三七三  
FAX 〇三(三八二)七〇三三

貫首 井上 日修  
執事 稲荷 泰雅

頭本法華宗総本山 **妙満寺**

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一  
電話 〇七五(七九一)七二七一  
FAX 〇七五(七九一)七二六七

貫首 山本 日恵  
総務 吉永 義康  
執事 中村 英司  
執事 湯原 正純  
執事 土持 悠孝

---

多寶富士山 日蓮宗 **本山要法寺**

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八  
電話 〇七五(七七二)三三九〇  
FAX 〇七五(七七二)五九一四

貫首 丹治 日遠  
執事 加藤 法夫  
執事 原 光明  
執事 住友 亮  
執事 工藤 海淳

---

日蓮宗大本山 **清澄寺**

日蓮聖人出家開宗の霊場

〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一  
電話 〇四(七〇九四)〇五二五  
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七

別当 二宮 日敬  
執事 宮崎 雅宣  
役員 一同

---

日蓮宗大本山 **中山法華経寺**

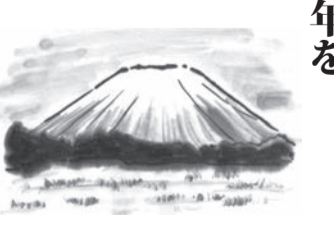
日蓮上人御聖廟 日蓮宗大本山 **富士山法華本門寺根源**

〒272 0813 千葉県市川市中山二―一―一〇一一  
電話 〇四七(三三四)三四三三  
FAX 〇四七(三三四)一七九六

貫首 新井 日湛  
執事 村尾 貞榮  
執事 高谷 正孝  
執事 滝本 善之  
執事 補田 智之  
執事 補田 智之  
執事 補田 智之

---

平成三十三年二月十六日は  
宗祖御降誕八百年を  
迎えます



# 門連時報

## 京都理事會開催



日蓮聖人門下連合会 京都理事會  
平成二十六年十月二十三日

平成二十六年十月二十三日(木)法華宗真門流総本山本隆寺(京都市上京区)に於いて「日蓮聖人門下連合会京都理事會」を開催した。本隆寺は、一七三〇年の「西陣焼け」、一七八八年の「天明の大火」で周辺の地が焼け野原になっても同寺だけは不思議に焼け残り、俗に「不焼寺・やけずのてら」と呼ばれ、昨年、重要文化財に指定された洛中の名刹である。正午より大玄関で受付を開始し、全国遠近より各本山貫首、門連顧問、常任理事、理事役員等五十三名が出席した。午後一時より本隆寺田仲日統貫首(京門連会長)が導師、足立真正師(京門連理事長)、橋本一妙師(京門連副理事長)の両師が脇導師を勤め、真門流の各上人式衆と共に法要を厳修した。その後、本堂前にて記念撮影をし、第二会場の京都ブライTONホテルへ移動。午後三時、同ホテルにて

田仲日統貫首、足立真正執事長より「本隆寺の沿革」についての講演、午後四時より理事會が開催され、小林順光理事長が座長となり議事を進めた。

一、上半期事業報告について事務局より報告、承認。二、京都門連事業報告を京門連理事長足立真正師より報告、了承。三、地方門連活動に関する件を大阪門下懇話会理事長東孝信師より報告、了承。四、その他の件とし、日蓮宗本山藻原寺持田日勇貫首(全門連相談役)より「オラトリオ日蓮聖人」演奏会について、各

派協力に対しあらためて御礼が述べられ、また門連への築譜寄贈が平成二十六年八月五日に門連事務局のある日蓮宗務院で行われた旨の報告がなされた。築譜は事務局にて保管されているので、宗祖ご降誕八〇〇年に向け是非活用して欲しいとの言葉が添えられた。

理事會終了後、全国の門連会員相互の親睦を深める懇親會を開催。結びに、次年度当番寺院日蓮宗大本山妙顯寺三田村日正貫首より次年度の京都理事會開催案内の挨拶があり、滞りなく京都理事會を終えた。

## 京都日蓮聖人門下連合会主催 公式法要奉行

平成二十六年十月四日(土)法華宗真門流総本山本隆寺(田仲日統貫首)に於いて、京都日蓮聖人門下連合会主催、門下本山会後援のもとに「宗祖七三三年お公式法要」が奉行され、京門連加盟寺院

の会員各聖、檀信徒約百名が参列した。法要に先立ち午後一時より、各宗派僧侶、檀信徒三十名で市中唱題行脚が行われた。一行は、本隆寺を出発し西陣の町並みを扇太鼓を力強く打ち、声高らかに進んだ。本門法華宗大本山妙顯寺(松下日肆貫首)、日蓮宗大本山妙顯寺(三田村日正貫首)ではそれぞれ本堂前にて法味を言上し本隆寺へ帰山した。午後二時半より日蓮宗本山妙覺寺貫首及川日周親下の「私のお題目」という講題の法話があり、引き続き昨年度重要文化財に指定された本堂に於いて田仲日統貫主親導師、足立真正、橋本一妙正副理事長協導師、真門流上人式衆、日蓮宗雅楽会各上人出席のもとに「宗祖七三三年お公式法要」を厳修し、最後に足立真正理事長より謝辞の挨拶で閉式となった。



お会式

## 京の冬の旅・琳派四百年

平成二十七年一月十日(金)日蓮宗大本山妙顯寺(京都市上京区)に於いて京の冬の観光を盛り上げる非公開文化財特別公開「京の冬の旅」のオープニングセレモニーが妙顯寺貫首三田村日正親下、門川大作京都市長、柏原康夫京都市観光協会会長、ポスターのモデルとなった鈴鹿可奈子さん(聖護院八ッ橋絵本店専務)等が出席され、華やかに開催された。本年は古都京都の文化財世界遺産登録二十周年記念と本阿弥光悦が京都鷹峯に芸術村を開いた琳派誕生から四百年になる「琳派四百年記念」と重なり、日本観光振興協会、各電鉄会社の協力を得て、一大キャンペーンを展開している。特別公開の冬の旅のコースには、京都日蓮聖



京の冬の旅2



京の冬の旅1

## 大阪日蓮聖人門下懇話会事業開催

### 第二十二回合同御会式

日蓮聖人合同御会式が昨年十一月三日、大阪市中央区の妙徳寺に於いて開催。東理事長導師にて法要を奉行され、多数の会員教師と檀信徒が列席した。法要後、三浦日脩師による「日蓮聖人の孝養に学びましょう」と題した講演と、旭堂南鱗師匠による「塚原問答」の一節の講談が行われた。

### 第二十五回研修会

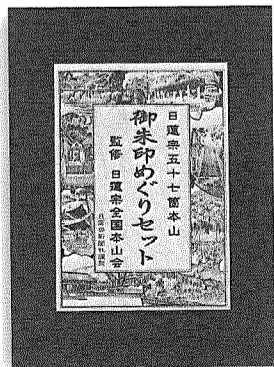
研修会が本年一月二十八日、シティプラザ大阪に於いて大阪城博物館学芸員宮本祐次先生の講師で開催された。講題は「大坂城と寺町の形成」で、豊臣時代の大阪から徳川時代の大阪への移ろいの中、城郭と市街地と寺町の形成と変化が講義され、後、先生を囲んでの懇親會が開かれ、会員の親睦を深めた。

## 人事(事務局への連絡日を含む)

| 年月日        | 氏名   | 宗派       | 門連役職 | 就任 | 退任 |
|------------|------|----------|------|----|----|
| 平成二六・一〇・三〇 | 土屋善敬 | 法華宗(陣門流) | 相談役  |    |    |
| 平成二六・一〇・一  | 小泉顕應 | 日蓮宗      | 幹事   | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一〇・七  | 根本康秀 | 日蓮宗      | 常任理事 | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一〇・七  | 原田智光 | 日蓮本宗     | 理事   | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一〇・七  | 加藤法夫 | 日蓮本宗     | 理事   | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一〇・七  | 二瀬智光 | 日蓮本宗     | 理事   | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一〇・七  | 住友公亮 | 日蓮本宗     | 顧問   | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一一・一三 | 平田日範 | 法華宗(本門流) | 顧問   | 就任 | 退任 |
| 平成二六・一一・一三 | 石田日信 | 法華宗(本門流) | 顧問   | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 田仲日統 | 京門下連合会   | 会長   | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 伊丹日章 | 京門下連合会   | 会長   | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 伊丹日章 | 京門下連合会   | 副会長  | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 山本日恵 | 京門下連合会   | 副会長  | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 足立真正 | 京門下連合会   | 理事長  | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 橋本一妙 | 京門下連合会   | 理事長  | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 橋本一妙 | 京門下連合会   | 副理事長 | 就任 | 退任 |
| 平成二七・一・一   | 吉永義康 | 京門下連合会   | 副理事長 | 就任 | 退任 |

# 日蓮宗全国五十七箇本山 御朱印めぐりセット

日蓮宗の本山五十七箇寺を巡り五十七紙の貫首さまの御首題に御朱印を拜受し巡る生涯忘れ得ぬ感動の旅をご家族と共に子孫に伝える信仰の証



※セット内容イメージ

監修 日蓮宗全国本山会

【セット内容】(箱入り)  
57本山貫首さまの御首題 57紙+白紙3枚 計60枚  
御首題携行帳 3帳(予備2帳)  
参拝案内カード 57種(最新地図・交通情報)  
手引書 1冊  
※参拝のワンポイント・団参コース等の案内

頒価 2,160円 (税込・送料別)

### 各派・教団・短信

**法華宗真門流** 九月九日、大阪府社会福祉会館に於いて、第一教区仏教講演会を開催。

十月八日～十四日、総本山本隆寺に於いて、秋季学林開講。

十月十二～十三日、総本山本隆寺に於いて、お会式奉修。

十月二十八～二十九日、第二教区護法会合掌の旅開催。テーマは「龍ノ口法難から佐渡法難に至る御足跡を辿る旅」。

十一月二十四日、総本山本隆寺に於いて、天台大師御正當會奉修。

十二月四日～五日、「平成二十六年年度定期宗会」開催。平成二十七年年度歳入歳出予算案審議の他、権大僧正推薦の件、学林長推薦の件、布教師養成所長推薦の件、布教師推薦の件等の各議案について審議。

十二月五日、総本山本隆寺平成大改修委員会開催。

一月一日～八日、総本山本隆寺に於いて、年頭国持会・法華八講開催。（森田暁哲）

**本門法華宗** 十月十二日、（松下日肆貫首）に於いて、宗祖日蓮大聖人御会式法要が厳修。

十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて御開山日像菩薩御報恩法要並びに三師會・歴代人法要が奉修。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院

長）第百五十回教学講習会を九月二・三日、第百五十一回同講習会を十一月二十五・六日、卯木講堂にて開講。

◆布教誌『生きる』第六十三号、情報『信行』第百八十二号を一月一日に発行。（吉村光敬）

**国柱会** 五月一日、月日、伊豆法難会慶讃法要。御聖日集会。担当、森山真治講師補。十五日、日蓮聖人門下連合会常任理事会（於、日蓮宗宗務院）開催。森山講師補出席。十七日、恩師忌。常勤給仕。各局輪番常勤給仕、十八日迄。十八日、妙宗大靈廟例月供養会。二十九日、法華会創立百周年記念講演及び祝賀会（於、ホテルオークラ東京）開催。賽主先生ご出席。

◆六月一日、月日、月日、昭和の日ネットワーク会議（於、神社本庁）に森山真治講師補出席。九月、日蓮聖人門下連合会身延理事会（於、身延山久遠寺）に、賽主先生・森山講師補出席。十一月、桂宮宣仁親王殿下薨去一般弔問記帳の為、賽主先生名代にて秋場講師赤坂御用地出向。十四日～十五日、各局輪番常勤給仕。十五日、妙宗大靈廟例月供養会。十七日、恩師忌。常勤給仕。豊島岡墓地に於ける桂宮殿下「斂葬の儀」に賽主先生名代にて秋場講師一般拝礼。

◆七月一日、月日、月日、中央有志清掃奉仕。八日、顕正会慶讃法要。御聖日集会担当・山田友重講師。十二日～十三日、各局輪番常勤給仕。十三日、妙宗大靈廟盂蘭盆開頭大供養会。十六日、宣正会慶讃法要。御聖日集会担当・森山真治講師補。十七日、恩師忌。常勤給仕。元日韓仏教交流協議会会長、宮林昭彦氏（神奈川県鎌倉市・光明寺）通夜法要に賽主先生名代にて秋場講師申間参列。十八日、日蓮聖人門下連合会機関誌編集委員会（於、日蓮宗宗務院）に森山講師補出席。二十日、ダルマパラ生誕一五〇周年法要（於、蘭華寺）に賽主先生代理にて森山講師補参列。三十日、明治天皇祭。若杉講師以下中央有志明治神宮参拝。（森山真治）

**京都門下連合会** 一月二十六日（月）新年理事会（本能寺文化会館）会長伊丹日章親下 副会長山本日恵親下 理事長橋本一妙師 副理事長吉永義康師。

◆二月十六日（月）総会・御降誕会（日蓮宗本山妙傳寺）導師野々垣日祐親下 講師山本日恵親下。

◆三月九日（月）理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）立教開宗会の件。

◆四月二十八日（火）立教開宗会（比叡山横川定光院）導師伊丹日章親下 講師法華宗布教師。

◆開催予定の身延理事会（日蓮宗総本山身延山久遠寺）会長、理事長出席予定。

◆六月十五日（月）理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）第五十一回夏季大学の件。

◆八月二十九日（土）第五十一回夏季大会（本能寺文化会館）講師伊藤日慈親下（日蓮宗大本山本願寺貫首）他、大学教授・一般講師招聘予定。

◆同日 理事会（本能寺文化会館）お会式の件。

◆十月三日（土）お会式（日蓮宗本山本法寺）導師瀬川日照親下 講師本山貫首親下。

◆十月理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）京都理事会の件。

◆開催予定の京都理事会（日蓮宗大本山妙顯寺）

◆十二月十八日（金）理事会（本能寺文化会館）行事報告 会計報告の件。

以上、平成二十七年京都日蓮聖人門下連合会行事予定。（橋本一妙）

◆ドイツの大聖恩寺で創立十五周年を迎え、記念式典が六月に開催される予定。

◆終戦七十周年を迎える本年も毎年開催している「千鳥が淵戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」を営む予定で、また昨年は土砂災害のため中止となった「広島原爆死没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」も開催する予定。

◆立正大学学園の立正大学付属立正中学・高等学校は東京馬込の新校舎開校記念事業として、釈迦如来像を造立し、昨年の行学ホールに安置された。（大澤宏明）

沼津市 大本山光長寺貫首 石田日信親下が十三日、法華宗第百三十四代管長に就任し、翌十四日、同本山に於いて推戴式が行われた。

◆十二月五日

◆当宗に縁のある方々へ「良縁成就」の場を積極的に協力応援し、良き出会いの場を提供すべくENKA I（縁会）を開催。全国から集まった男性僧侶十二名と、寺院にご縁のある女性十三名は大いに親睦を深め、最終的に六組のマッチングが成立した。

◆平成二十七年二月九日

◆第二十八回法華宗教学研究発表大会がホテル本能寺にて開催される。一般聴講可※。

◆二月十七日

◆昨秋に新校舎が完成した興隆学林専門学校にて、学林生による弁論大会が開催される。今年で五十五年を数える本会は、入場自由で一般聴講可※。

◆三月五日

◆興隆学林専門学校の平成二十六年卒業式が行われる。行学二道に励んだ学林での経験を糧に、卒業生は新たな布教の第一線に立つ。当校は他門流・一般信徒の入学生も受け入れ、現在通学中。平成二

十七年度の新人生活を募集中※。

◆三月十一日

◆東日本震災慰霊法要奉修（いわき市久之浜）

◆四月五、六日

◆三聖人御遠忌大法要が大本山光長寺にて奉修される。

（大本山光長寺開基同時二日春聖人七百遠忌、法運中興日隆聖人・日朝聖人五百五十遠忌）

◆各会への聴講希望、学林への入学希望等、問い合わせは宗務院(03-5614-3655)まで。

（宮村光明）

**頭本法華宗** 九月十二日、東部地区は千葉県千葉市本行寺において、西部地区は総本山妙満寺において、地区別布教師研修会が開催された。東部地区は特命布教師・朝倉俊泰師による講義がそれぞれ行われた。

◆十月二十三日、千葉県大網白里市芳墳寺において、東部連合会先師法要及び僧侶講習会が行われた。講習会では、立正大学名誉教授・中尾堯氏による特別講義が行われた。

◆十月二十九日、千葉県東金市妙善寺において、東部地区僧侶研修会が開催された。中山淨敬師・吉本栄親師による講義が行われた。

◆十一月四日、総本山妙満寺において、西部地区僧侶研修会が開催された。講義内容は東部に同じ。

◆十一月十八日、千葉県山武郡九十九里町妙覺寺において、法式講習会が開催された。法式研究所による声明や式具の打ち方などの講義が行われた。

◆一月二十日より二月一日まで、千葉県内数ヶ寺を巡拝する寒中修行が頭本青年会僧侶によって行われた。

◆二月二十日、東京都品川天妙国寺において、公開研究例会が開催された。

◆九月三日～四日、毎年宗内の

各教区が持ち回り会場となる中央行学講習会が本年は宮城県（東北教区）にて開催された。三日は仙台・ホテルモンテレ仙台三階翠鳴館において開講の後、講義が行われた。第一講義は東京大学教授・文学博士の眞輪顕量先生をお招きし、「法華経の日本における受容」修行道の視点から」と題して、お話を頂いた。また第二講義は東洋哲学研究所研究員・文学博士の菅野博史先生をお招きして「天台大師と法華経—『法華文句』・四種積・教判—」との講義でお話を頂いた。四日は東日本震災で津波の甚大な被害を受けた、名取市の閑上地区と仙台市の荒浜地区を訪ね慰霊の法要をおこなった。その後大崎市古川の長久寺を参拝し閉講式が行われた。今年も百名を超える参加者が集い、学を学ぶと共に一層の親睦を深めあった。

◆九月九日、第百二十二次臨時宗会が東京巣鴨・宗務院にて行われた。

◆九月二十八日、雅楽練習会が宗務院において行われた。

◆十月二日、本連同異決会本刊行委員会が宗務院にて行われた。

◆十一月十一日、本連同異決会本刊行委員会が宗務院にて行われた。

◆十一月十八日～十九日、別院巣鴨本妙寺において研究発表会が開催された。この発表会は、宗内全教師を対象に発表者を募集し、本宗の教学・教史・教団史をはじめ、仏教学各分野や化学など、最新の研究成果を公表し合うために開催され、本年も十六名の教師が発表し、参加者との活発な議論が交わされた。

◆十一月十八日、宗学研究所員会が宗務院において開催された。

◆十一月十九日、学林教授会が宗務院において開催された。

◆十二月一～二日、宗務院において新就職・学生・沙弥合同研修会が開講された。新就職や学生は講義を通じて、陣門教学はもとより、講師の体験を交えた布教活動の実

際などについて学んだ。

◆十二月十六日、本連同異決会本刊行委員会が宗務院にて行われた。（田邊尚志）

**日蓮本宗** ◆人事・前内局の任期終了による退任に伴い、後任内局として宗務総長に加藤法夫師（志摩市・法華寺住職）、総務部長に原光明師（箕面市・本成寺住持）、財務部長に住友公亮師（京都市・本院院任職）、教務部長に工藤海淳師（京都市・法性院住職）がそれぞれ選出され、新たに宗門の舵取りを行うこととなった。（柳下真敬）

**日蓮聖人門下連合会**

●目的  
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡協力・団結を強化することを目的とする。

●事業  
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化  
2、教育事業の提携  
3、布教の連合強化  
4、懇談会・研究会・講演会等の開催  
5、各種出版物の刊行  
6、海外布教の提携及び交流  
7、対外的な各種の運動  
8、その他

●加盟団体  
日蓮宗 法華宗本門流  
頭本法華宗 法華宗陣門流  
本門佛立宗 日蓮本宗  
法華宗真門流 本門法華宗  
国柱会 日本山妙法寺  
京都門下連合会